

1. 九工教(九州工学教育協会)ニュースの発刊に寄せて

九州工学教育協会会長 太田 俊昭

工学教育を取り巻く環境は、大きく変化しようとしています。その根幹にあるものは、国境を超えたボーダーレスの競争です。アクレディテーション(工学に関する評価認定システム)からベンチャーの創出による地域産業の活性化まで、地域を問わず、企業の規模を問わず、工学教育に望まれるものの大部分は国際化に関連したものと言えるでしょう。国内はもちろん、国際的な変化を、的確にタイミングを逸することなく捉え、これを工学教育に活かし、将来のわが国の国際競争力を担う人材を育てることが望まれています。

今回、九州工業教育協会から国内外の工学教育に関する動きを少しでもお伝えするため「九工教ニュース」を発刊することになりました。会員皆様相互の情報提供の場となるとともに、変化を捉えるアンテナとしてご活用いただければ幸いです。今後、この小ニュースが工学教育を発展させるための真の情報源として育って行くことを心から期待するものです。

2. 平成9年度の九工教の動き

5月6日(月) 第1回常任理事会(21名中13名出席)

- ・前年度決算、新年度役員案、事業計画案、予算案の検討
- ・第46回日工教年次大会(平成10年7月 九工教担当)の実行委員会の設置の検討
- ・4月から九工教会員が75名(ほとんど九大教授・助教授)一挙に増加した。11月に熊大の先生方約20名の参加申込があった。

7月7日(月) 第1回運営委員会(15名中12名出席)

- ・第46回日工教年次大会の実行委員会を兼ねることの了承と粗案検討
- ・九工教入会案内を作成することになった。
- ・九工教の活性化について討議した。

7月14日(月) 第1回理事会(於九州電力(株)新大分発電所)と見学会(33名出席)

- ・常任理事会で検討された案が承認された。
- ・行き帰りのバスの中で、平川先生(九大・機械)から、「日本・外国の工学教育」について説明をきいたり、討論会をやったり、アルコールが回るにつれて歌までとび出す楽しい一日でした。九州電力の方々には、大変お世話になりました。

11月17日(月) 第2回運営委員会

- ・第46回日工教年次大会の粗案を決定した。
- ・今後の九工教運営方針について討議した。

平成10年1月6日(火) 第2回常任理事会

平成10年2月2日(月) 第2回理事会・総会・講演会

3. 九工教・高専研究集会の件

久留米高専校長 谷口 宏

九州には九つの国立高等専門学校(以下高専と略)がある。毎年輪番で工学教育に関する研究集会を行っている。本年は12月5日に熊本電波高専で「創造実験教育について」をテーマに各高専の事例を報告し、討論が行われる。九州工学教育協会による九州全域にわたる唯一の行事であり、各地の大学の工学部と連携した会に発展することが望まれる。

昭和37年に発足した高専制度は我が国の教育の複線路線としてユニークなものである。中学卒の若者に五年間、実験・実習の体験を多く取り入れてゆとりのある工学教育を行ない、我が国の高度成長の原動力となった中堅技術者を輩出してきた。ところが、今日21世紀を迎え、他の分野と同様に高専にも大きな改革の波が押し寄せている。製造業は独創開発型の技術者を求

録や工学教育プログラムの評価・認定システム (Accreditation) が整っていることを前提としている。我が国は欧米のようなアクレディテーションシステムとは異なったシステムを持っているために、諸外国には透明性を含めて分かりにくいことが問題である。

サンディエゴ会議では、筆者も日本の大学設置基準や評価制度を説明したが、反応は例えばカナダの代表の「日本はどの様に認定された教育をして、どの様にして優れた技術者を世に送り出しているのか、明確に分からない限り受け入れにくい。技術者教育、専門技術経験が日本ではどうなっているのか、Academic Equivalence が同等なのか、透明性がはっきりしなければ日本を入れにくい (カナダ)」が代表的なものであった。

日本の技術者資格が国際的に受け入れられない場合には、

- ・日本の技術者の国際的な活動の場が狭められる。
- ・日本の製品の国際的な流通に支障をきたす。
- ・日本の工学教育の質が世界的に評価されない。

などの問題が生ずるため、日本でもこの問題について検討することが緊急の課題である。

現在、日本国内では(社)日本工学会、(社)日本工学教育協会などで調査研究が実施され、日本型Accreditation Systemの構築に向けて委員会が設立された。国際的に透明度の高い工学教育の評価制度と技術者資格の認定システムが構築されることが期待される。

6. 日工教第46回年次大会の件

日工教年次大会は、毎年9つの地区教が順番に開催を担当して開いているが、来年は九工教の担当となっている。今回は平成元年に第37回大会を福岡市で開催しました。

第46回年次大会の開催日程と場所と標題は次の通りです。

平成10年7月29日(水)～7月31日(金)、福岡リーセントホテル

標題：「科学技術立国を支える工学教育」

この大会に関連して九工教から会員の皆様にお願ひしますのは、次の2点です。

- (1) 総会・年次大会および懇親会への参加
- (2) 工学・工業に関する研究講演会での論文の発表

今後、教育面での業績を評価する動きが強くなるのは目に見えています。この機会に、是非とも日頃の工夫・努力を論文の形で発表して下さい。

7. あとがき

九工教には、おつきあいに入っているが、「何をやっているのだからサッパリ分らん。しかし年会費は1,000円だから、まあいいや」と思っておられる方が、ほとんどではないかと思われます。これでは、九工教の活性化も何もあったものではありません。まず皆さんに、九工教や日工教が何をしていて、工学教育の面で、世の中何が問題になっているか等をお知らせしたくてニュースを発刊することにしました。これは、年2回会員に、総会・理事会のお知らせをする封筒の中に入れて配布しますので、特にお金はかかりません。今回は、私の一存で原稿を依頼しましたが、次回からは、投稿も受け付けます。ただし、全体の頁をあまり増やしたくありませんので、半頁～1頁として下さい。書式は本ニュースのものに沿うようにお願いします(フロッピーで頂ければ最高です)。最近の工学教育界の動きを見ていると、研究だけでなく教育上の業績も対等に評価しようという動きが強くなってきています。九工教でも「九州工学教育協会奨励賞」を設けて、実施に向けて努力中です。そして、秘かに工学教育に関係ある教授の方は、九工教に入っていないと何らかの損を受けるような九工教になることを願っています。では、2月2日(月)の第2回理事会および総会・講演会へのご参加を心から期待致しまして、常務理事の「あとがき」と致します。

(文責 常務理事 中武 一明)

録や工学教育プログラムの評価・認定システム（Accreditation）が整っていることを前提としている。我が国は欧米のようなアクレディテーションシステムとは異なったシステムを持っているために、諸外国には透明性を含めて分かりにくいことが問題である。

サンディエゴ会議では、筆者も日本の大学設置基準や評価制度を説明したが、反応は例えばカナダの代表の「日本はどの様に認定された教育をして、どの様にして優れた技術者を世に送り出しているのか、明確に分からない限り受け入れにくい。技術者教育、専門技術経験が日本ではどうなっているのか、Academic Equivalence が同等なのか、透明性がはっきりしなければ日本を入れにくい（カナダ）」が代表的なものであった。

日本の技術者資格が国際的に受け入れられない場合には、

- ・日本の技術者の国際的な活動の場が狭められる。
- ・日本の製品の国際的な流通に支障をきたす。
- ・日本の工学教育の質が世界的に評価されない。

などの問題が生ずるため、日本でもこの問題について検討することが緊急の課題である。

現在、日本国内では（社）日本工学会、（社）日本工学教育協会などで調査研究が実施され、日本型Accreditation Systemの構築に向けて委員会が設立された。国際的に透明度の高い工学教育の評価制度と技術者資格の認定システムが構築されることが期待される。

6. 日工教第46回年次大会の件

日工教年次大会は、毎年9つの地区教が順番に開催を担当して開いているが、来年は九工教の担当となっている。今回は平成元年に第37回大会を福岡市で開催しました。

第46回年次大会の開催日程と場所と標題は次の通りです。

平成10年7月29日（水）～7月31日（金）、福岡リーセントホテル

標題：「科学技術立国を支える工学教育」

この大会に関連して九工教から会員の皆様にお願ひしますのは、次の2点です。

- (1) 総会・年次大会および懇親会への参加
- (2) 工学・工業に関する研究講演会での論文の発表

今後、教育面での業績を評価する動きが強くなるのは目に見えています。この機会に、是非とも日頃の工夫・努力を論文の形で発表して下さい。

7. あとがき

九工教には、おつきあいに入っているが、「何をやっているのだからサッパリ分らん。しかし年会費は1,000円だから、まあいいや」と思っておられる方が、ほとんどではないかと思われます。これでは、九工教の活性化も何もあったものではありません。まず皆さんに、九工教や日工教が何をしていた、工学教育の面で、世の中何が問題になっているか等をお知らせしたくてニュースを発刊することにしました。これは、年2回会員に、総会・理事会のお知らせをする封筒の中に入れて配布しますので、特にお金はかかりません。今回は、私の一存で原稿を依頼しましたが、次回からは、投稿も受け付けます。ただし、全体の頁をあまり増やしたくありませんので、半頁～1頁として下さい。書式は本ニュースのものに沿うようにお願いします（フロッピーで頂ければ最高です）。最近の工学教育界の動きを見ていると、研究だけでなく教育上の業績も対等に評価しようという動きが強くなってきています。九工教でも「九州工学教育協会奨励賞」を設けて、実施に向けて努力中です。そして、秘かに工学教育に関係ある教授の方は、九工教に入っていないと何らかの損を受けるような九工教になることを願っています。では、2月2日（月）の第2回理事会および総会・講演会へのご参加を心から期待致しまして、常務理事の「あとがき」と致します。

（文責 常務理事 中武 一明）